



BAIEIDO-TSUSHIN

# 梅栄堂通信

Vol.45

'05夏・秋号

高級お香しゅうこうく

# 聚香国

SYUKOHKOKU

## 今蘇る 贅沢で、深遠な香り

はるか昔の中国・河北平原あたり、  
すべての香りが集まる聚香国があったといわれています。  
古人(いにしえびと)も愛した悠久の香りを求めて、

創り上げた梅栄堂の「聚香国」は、  
沈香、白檀など天然香材二十種以上を使用し、  
秘伝の技で練り上げました。

静かに漂う、深い香りをぜひ一度、お聞きくださいませ。



●標準小売価格 5,250円  
(本体価格 5,000円)



創業三百有余年

# 梅栄堂

〒590-0943 堺市東区東1丁目1番4号  
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672  
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



## 全ての沈香がワシントン条約規制品目に

## 数多くある沈香の種類



沈香は、ジンチヨウゲ科の *Aquilaria* (アキラリア) 属の樹の、老木、倒木、傷ついた木などに細菌類等が附着して生まれた、芳香を発する樹脂の一種ですが、生成のメカニズムは未だ不明です。

沈香の種／ベトナム沈香  
(国際沈香会議展示パネルから)

一般に、沈香は香木の呼び名ですが、原木自体を指す場合もあります。沈香は加熱すると強く優雅で神秘的な香りを出しますが、他の香木と異なり、加熱しない場合はほとんど香りが無いのが特徴です。香道において欠かせない沈香は、粉末や小片の形で利用されます。これらの成分は沈香の樹脂に含まれており、樹脂化していないところには含まれていません。沈香の用途としては薫香料としての高級

が出まわれれば専門家でもその判別は不可能であると言われていました。

そんな事が、今回、全面指定に踏み切られるきっかけとなったと考えられます。

## 絶滅を救うために

二〇〇三年十月に開催されたベトナムの国際沈香会議でも、沈香はこのまま放置をすればいよいよ絶滅するとの危機感を訴えるグループ、また、沈香は栽培で生産を増やせるとの研究実績を発表するグループも多くありました。

沈香研究者として著名な大阪大学の米田先生によれば、「沈香木は大変生命力の強い木で、芽が出ればその大半は成木に成長する。ただ問題なのは、沈香の樹脂が含まれているかどうかは切り倒してからでない」と分らず、一

線香や合わせ香等に用いられるほか、鎮静・健胃・解毒作用があるとされ、高貴薬や一部の漢方薬にも配合されています。日本以外の国では、やはりアジア諸国で医薬品、薫香料として使用され、またアラブ諸国では沈香を水蒸気蒸留して得られるオイルが香料などに大量に利用されています。

高級かつ貴重な香料として、梅栄堂製品には欠かせない沈香ですが、このたび、二〇〇五年一月十二日から「沈香基原植物全種」が、ワシントン条約付属書Ⅱに指定される事になりました。

ワシントン条約には、締約国会議で承認を受けて採択される、パンダやトラなどの様に全く商業取引を禁止する付属書Ⅰと、産出国の許可証(CITES)があれば商業取引は可能な付属書Ⅱ、そして原産本の沈香樹脂を含んだ木を見つけ出すのに、二十本近くを伐採するところにある。切り倒す前に沈香樹脂が含まれているかどうか判別できれば、自然保護に役立つであろう。とのこと。先生もい方法を目下研究中のようです。

ただ、そう簡単に沈香が手に入るようになれば、沈香の価値が下落することにもなるのですが…。

## 賛成多数で全面規制に

昨年十月にバンコクで開催された第十三回ワシントン条約締約国会議に出席した知人の報告によれば、今回の全面規制についての提案国であるインドネシアが提案理由を説明した後、原産国であるベトナムからインドネシアの提案を支持する発言があり、アラブ首長国連邦、カタール、クウェートからは反対の意見が述べられました。最終的には採決となり全面

■ワシントン条約とは、絶滅の恐れのある野生動物を保護するために、過度に国際取引に利用されないように採択された国際条約のことです。一九九五年に指定された一部の沈香に続き、このたび、全ての沈香が規制の対象として扱われることになりました。

国が独自に設定出来るⅢ(取扱いは基本的にⅡと同じ)に分けられています。すでに一九九五年には、沈香の一種 *Aquilaria malaccensis* が今回と同じワシントン条約付属書Ⅱに登録されています。ひとくちに沈香といっても、種類が多く、昔からクニシシ香として親しまれているインドネシア・マレーシア産の *Aquilaria malaccensis* や、シヤム産の *Aquilaria cransana* など、約二十種の *Aquilaria* 属、そして十年ほど前から沈香の基原植物とされたインドネシア西イリアン・パプアニューギニア産の七種類の *Gynopops* (シリノプス) 属があり、*Aquilaria malaccensis* のみが規制対象となっても、市場に沈香規制賛成が七十一、反対九、棄権二十三で原案通り承認されました。

お線香の原料にも国際的な利害が絡み、我々の知らないところで駆け引きの道具として使われているようにも感じられました。日本政府は、沈香の使用は輸出許可証が発行されれば確保できるとして、賛成投票を行ったのもようです。実際の国際取引ではまだまだ不透明なところもあるようです。

ちなみに、梅栄堂では数年前から、輸出国の許可証(CITES)を付けて輸入された沈香をすでに購入していることを、最後に付け加えさせていただきます。



沈香の苗／インドネシア カリマンタン

採取沈香の山／インドネシア ジャカルタ







梅栄堂にて記念撮影▶



ジェド・グラフ氏  
(写真右端)

1942年米国ニュージャージー州モントクレア生まれ。プリンストン大学在学中に、東京オリンピックの背泳選手代表として来日。2分01秒3の世界新記録で金メダルを獲得。心理学博士。カナダのトロント大学で教職を取った後、広い知識と経験を生かし多方面で活躍。現在、IPM-SOFTWARE社重役他。1987年にはISHOF(国際水泳殿堂)入りを果たした。

NIPPON  
Rediscovery  
日本再発見

東京オリンピックから四十年

## 夢をかなえてくれた旅

ジェド・グラフ

お線香は禅でも大切なものです。

■四十年前、東京オリンピックにアメリカの水泳選手として日本を訪れたジェド・グラフさん。その後、日本への再訪を待ち望んでおられたということ。今回久しぶりに訪れた、日本の印象はいかがだったのでしょうか。

一九六四年東京オリンピックに、アメリカの水泳の代表選手として参加してから約四十年、今回アメリカ、カナダ、コスタリカの三つの禅センターから四十一人のメンバーが集まり、仏教の霊所を巡る巡礼の旅として、かねてから念願であった、日本に戻ってくる事が出来たのです。私達の家族を含め何人かは一足早く日本に到着し、その後他のメンバーと合流することになっていました。

私はこの旅でもう一つ大きな目的を持っていました。それは、禅センターで長年使っているお線香の「好文本」に大変興味があり、と

二メートルあるのですが、当時はよく振り返られたのを覚えていますが、今はもうそんなことはありません、それだけ日本人の身長が大きくなったのと、西洋の人が日本に来る機会が増えたという事でしょうか。当時はアメリカと日本の文化に大きな違いを感じていましたがその後、禅に出会い、経験したことにより、今回の旅ではより日本が馴染み深く感じられ、そんな自分に驚いています。

環境は変わっても、日本人の心遣い、清潔さ、規律正しさ、礼儀正しさ、そして素晴らしい芸術的な伝統は、今も変わりにくく生き続けているという事です。

職人の「手」と「心」に感動しました。

工場見学をする前は、お線香も最新式の

りわけその製造工程を知りたくて、ぜひとも工場を見学したいことを梅栄堂にお願いしていました。当日は中田恭三朗氏が我々を最寄り駅まで出迎えてくれました。本社では中田会長、中田社長に紹介され、原料となる香料の話などを伺いました。そしてその後工場へと案内されたのです。今回の旅行で一番重要で、かつ印象に残った事の二つが、中田氏に案内してもらった梅栄堂での工場見学ですが、その話に入る前に、二度の旅を振り返り、それぞれの旅で感じた日本の印象について少しお話ししたいと思います。

日本人の心遣いは、今も変わりません。先程もお話したように、私が前回日本を訪れたのは二十歳、東京オリンピックの時でした。ホスト国としての日本は最高

テクノロジーで、すべてが機械工程で製造されるのかと思っていました。もちろん、原料を砕いたり、混ぜたりするには機械が使われていましたが、高級なお線香は、大部分が伝統的な方法で作られているのを知った時は、驚きであるとともに、伝統の素晴らしさを実感しました。その工程のすべては、我々の環境の中ではほとんど見ることができないような、細心の注意が払われたもので、お線香に対する職人の方たちの愛情の深さに心を打たれました。作業はすべて正確に進められ、特に乾燥の前にお線香を整える姿

はたいへん優美なものでした。

中田さんの勤めて娘も試させてもらったのですが、簡単なように見えて、それがいかにむずかしいものであるということ、見ていてすぐわかりました。

禅センターで日々、また特別の儀式にも使用しているお線香には敬意を持っていましたが、今回の経験から、

で、セレモニも競技もすべて順調。中でも五千人が一緒に住んだ選手村は最高で、国々間の小さな政治的な違いを忘れて、それぞれが素晴らしい友情関係を結べたことは忘れられません。私の出場した二百メートル背泳では予選を含め三日間泳ぎ、決勝は十月十三日に行われまして、やっとそのプレッシャーから開放された時、余裕をもって日本を観察できたように感じました。

当時、オリンピックを前にして新幹線が既に開通し、世界的にもたいへんな話題になっていました。オリンピックのためには日本初の高速道路も完成していましたが、まだほんの一部だったと記憶しています。現在では新幹線も増え、高速道路網が張りめぐらされ、どこに行くのにも移動がスムーズになりました。都市には高層ビルが立ち並び、道行く人の服装も現代的になったように感じます。

個人的に感じる事としては、私は身長がより強いものになりました。私達陣をやるものにとつて、大切なお線香のために努力していただける梅栄堂と社員の人々に本当に感謝しています。好文本が特別なお線香であること、日頃から感じていたのです

が、その秘密は原料だけでなく、それに職人の方たちの「手」「心」が加わって初めて生まれることがよくわかりました。本当にどうもありがとうございました。

M 200 BACK FINAL	
1	CRAEF USA 2.10.3 PM
2	DILLEY USA 2.10.5
3	BENNETT USA 2.13.1
4	FUKUSHIMA JPN 2.13.2
5	KUPPERS GER 2.15.7
6	HAZANOV URS 2.15.9
7	HUTTON CAN 2.15.9
8	REYNOLDS AUS 2.16.6





# 檸檬

さまざま  
薬用効果が  
認められています。



レモンは、亜熱帯性のみかん族の柑橘類で、五、六月に開花します。花は直径三〜五センチで、花弁の表は白色、裏は紫色です。開花後に実った果実は初冬に収穫されます。レモンといえば、現在では地中海や、カリフォルニアなどの産地が有名ですが、原産地はインドの北東部アッサムあたり。十二世紀頃アラビヤ人がスペインに伝え、また十字軍の兵士がヨーロッパに持ち帰ったのが、広く栽培されるきっかけとなったといわれています。十五世紀には、コロンブスが二度目の大航海の時にレモンを持参し、アメリカにも伝わりました。その後各地で生産され、世界的にも有名な産地となりました。

現在では、カリフォルニア地方がイタリアとともに、レモンの香気成分は果汁にも多少含まれていますが、大部分は果皮に含まれています。重要な香気成分は

リモネン(LIMONENE)とシト랄(CITRAL)で、レモン独特の爽やかな香りをももも出しています。現在では、エッセンシャルオイルは機械による圧搾法で生産され、アロマテラピーなどに利用されています。

レモンのイメージはフレッシュで清潔感のあふれるものですが、実際レモンの精油には強い殺菌作用、消毒作用があり、その持続力は二十日間にも及ぶため、病室や、待合室の空気の清浄化には理想的なものです。ヨーロッパでは、古くから薬用として大切なものでした。レモンには



はビタミンCが多く含まれ、免疫力の増加、止血作用、強心作用などいろいろな薬用効果が認められています。また、疲労回復に欠かせない物質として、最近クエン酸が話題になっていますが、レモンにはクエン酸が豊富に含まれています。

この夏の体力づくりに、レモン果汁をたっぷり搾りこんだフレッシュジュースなど試されてみてはいかがでしょうか。

●新商品紹介

心をほぐす蜂蜜の豊かな香りをお楽しみ下さい。

ほんほんこう

## 文々香



ご好評いただいたイチゴの香りのお線香について、蜂蜜の香りのお線香が誕生しました。黄金色に輝くつややかな蜂蜜。その蜂蜜の香りを、たっぷりお線香に練りこみました。豊かな香りが、やさしく心をほぐします。おくつろぎのひとつに、是非ご利用ください。



●文々香 標準小売価格 1,050円 (本体価格 1,000円)

●話題

台湾テレビが梅栄堂を紹介

台湾テレビTVBS-IGの番組「Oh! Japan」は、いろいろな日本を紹介する番組です。アを交えた二人の会話とともに、はじめてのお線香作りに挑戦する様子が放映されました。

新発想企業探訪

日本生命の企業誌「経営情報」三月号では、伝統を礎に革新を起す老舗として、「梅栄堂」が紹介されました。創業三百四十八年の歴史を誇る梅栄堂一六代目 中田信浩社長は、「伝統の技を礎として、顧客の需要に合わせるで革新していく」という姿勢で新しい香りづくりに積極的に挑み、いくつものヒット商品を生み出した。このような梅栄堂の線香は、地場産業に少なからぬ元気を与えることになるだろうと結んでいます。

ラジオ番組で生出演

MB Sラジオ「こんにちにはコンちゃんお昼ですよ！」(十月二

今回、日本の伝統文化のひとつとしてのお線香が紹介され、人気レポーター二人が台湾から取材に来られました。工場ではお線香の製造工程を見学。ユーモア十八日放送)では梅栄堂の中田社長が生出演。スタジオでは、コーヒーの線香の香りが漂う中、新しい香りづくりに関わるお話をさせていただきました。

《残香飛》(二期香)誕生のエピソードや、今後のお線香づくりへの意気込みなど、話の輪が広がりました。

《文々香》が話題商品に

日経流通新聞(二月二十八日)では話題の商品として、梅栄堂の蜂蜜の香りのお線香《文々香》を掲載。八世紀に鑑真和尚が唐から持ち帰った練り蜜に蜂蜜が含まれていたことをヒントにした、誕生までのイキサツも紹介されました。

また、朝日新聞(三月二日)をはじめ、雑誌各誌で《文々香》《残香飛》がユニークな商品として掲載されました。

